

平成21年度の産業廃棄物の処理状況（速報）

1 産業廃棄物の現況

(1) 産業廃棄物の発生の状況

平成22年度に本県が実施した産業廃棄物処理状況調査によると、産業廃棄物（特別管理産業廃棄物を含む。）の平成21年度の発生量は17,801千トンであり、現計画の基準年度である平成16年度の発生量20,595千トンに比べ13.6%減少している。（図1）

昭和54年度から増加傾向にあった発生量が平成21年度に大きく減少した原因は、その前年に発生した世界的な経済状況の悪化による生産活動の縮小と考えられる。なお、本県の平成21年度における製造品出荷額は、前年に比べ25.8%減少しており、同様な傾向が廃棄物発生量にも現れていると言える（廃棄物発生量は前年度比20.3%減）。（図1、2）

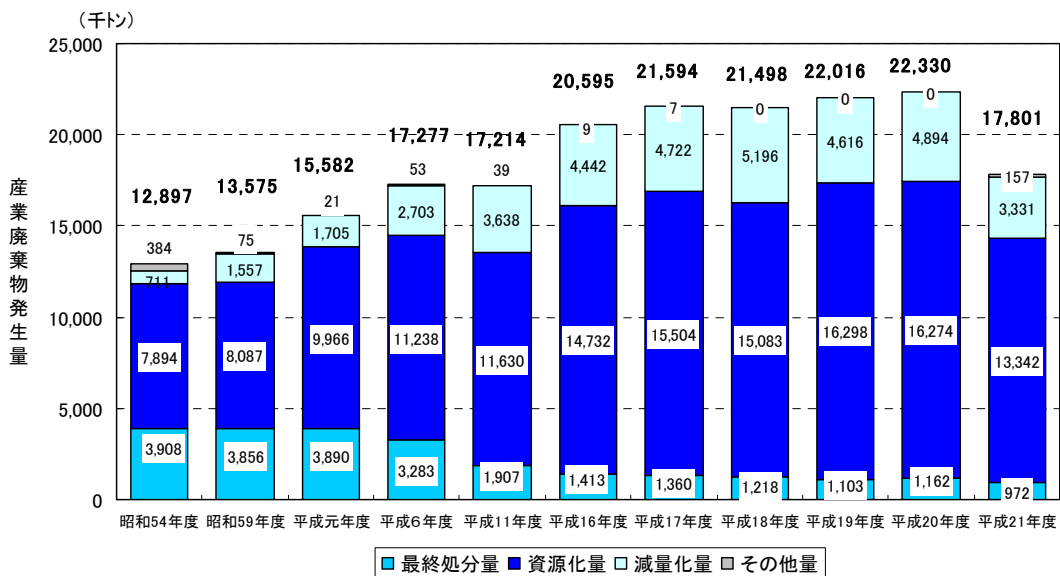
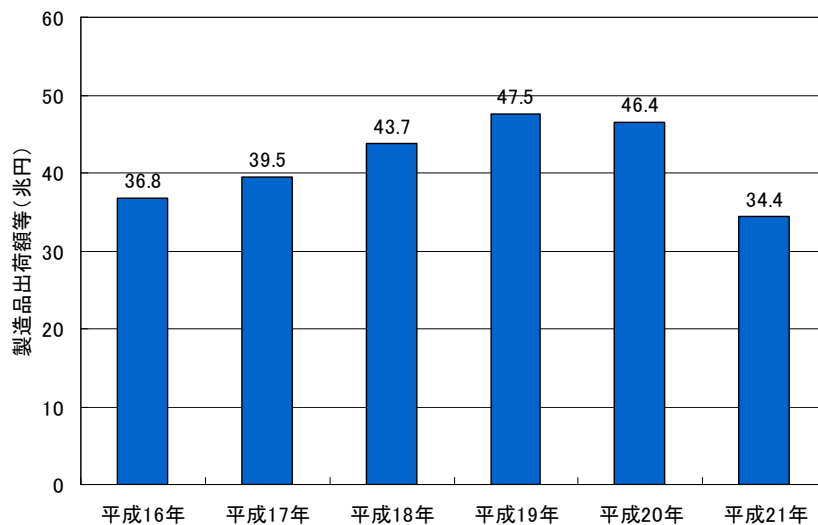


図1 産業廃棄物の発生量等の推移



出典：平成21年あいちの工業（平成23年2月 愛知県県民生活部統計課）

図2 製造品出荷額の推移

産業廃棄物の発生量を業種別にみると、製造業が 47.5%、建設業が 27.2%、農業・林業が 14.1%、電気・ガス・熱供給・水道業が 9.7%を占めている(図3)。また、種類別にみると、がれき類の 20.0%、鉱さいの 19.4%、動物のふん尿の 14.0%、汚泥の 13.8%、金属くずの 10.9%、ばいじんの 8.3%と 6 種類の産業廃棄物が約 9 割を占めている(図4)。

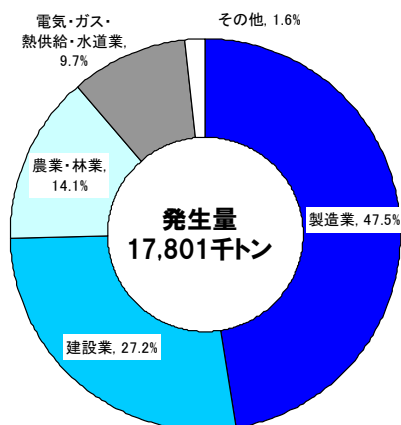


図3 業種別発生状況

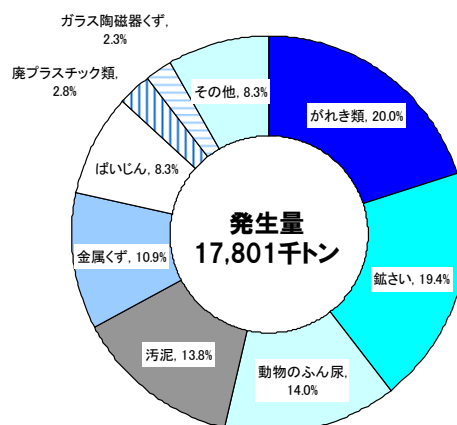


図4 種類別発生状況

この6種類の産業廃棄物について、平成21年度の発生量はばいじん及び動物のふん尿を除く4種類については平成16年度の発生量から12.9%（鉱さい）～31.5%（金属くず）まで減少している(図5)。なお、ばいじん及び動物のふん尿の発生量はわずかに増加している。

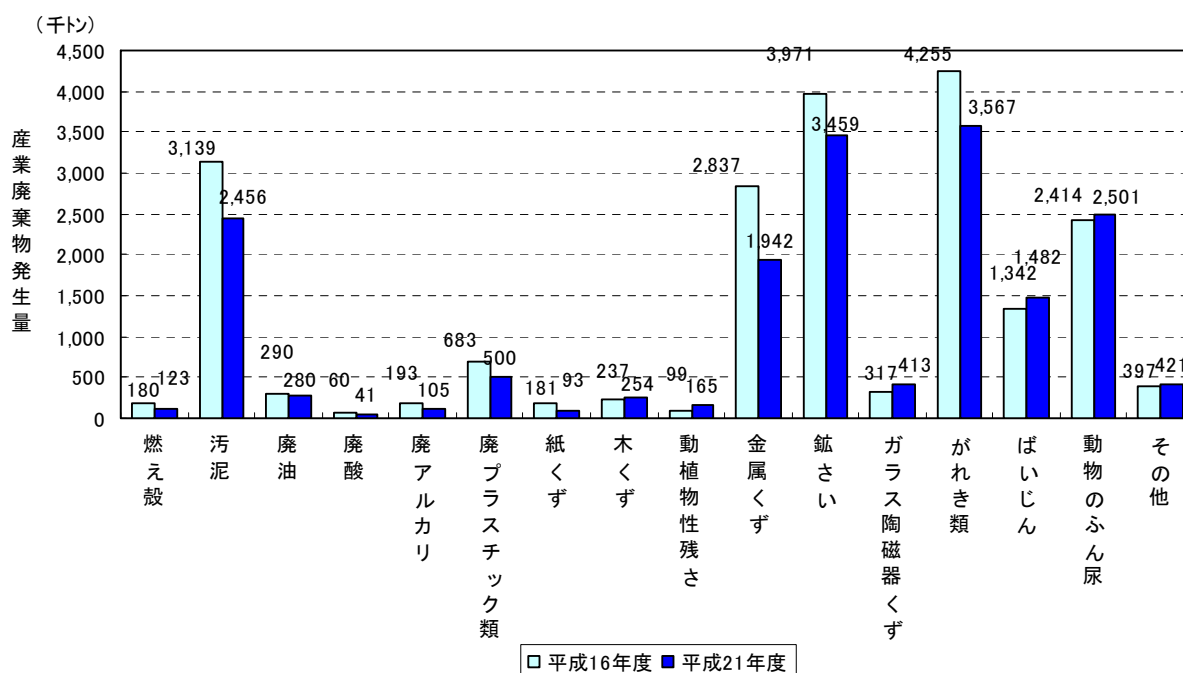


図5 種類別発生量

また、産業廃棄物の処理の流れによれば、平成 21 年度の資源化量は 13,342 千トン、減量化量は 3,331 千トン、最終処分量は 972 千トンとなっている。

その最終処分量のうち 549 千トン（56.5%）が中間処理されることなく直接最終処分されている（図 6）。

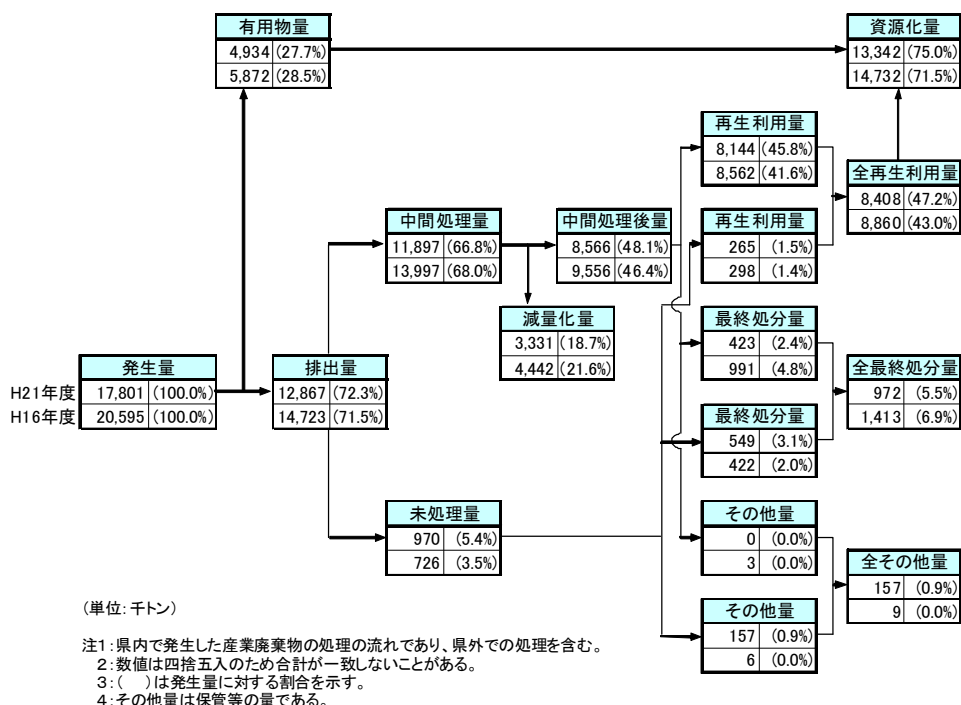


図 6 産業廃棄物の処理の流れ

(2) 産業廃棄物の減量化、資源化等の状況

ア 業種別の減量化、資源化の状況

平成 21 年度の減量化の状況（減量化率）を業種別にみると、高いものから農業・林業の 56.0%、電気・ガス・熱供給・水道業の 29.8%、製造業の 13.6%、建設業の 4.1% の順となっている。また、平成 21 年度の資源化の状況（資源化率）を業種別にみると、高いものから建設業の 88.9%、製造業の 81.9%、電気・ガス・熱供給・水道業の 58.7%、農業・林業の 37.8% の順となっている（表 1）。

表 1 主な業種別の産業廃棄物の処理・処分状況

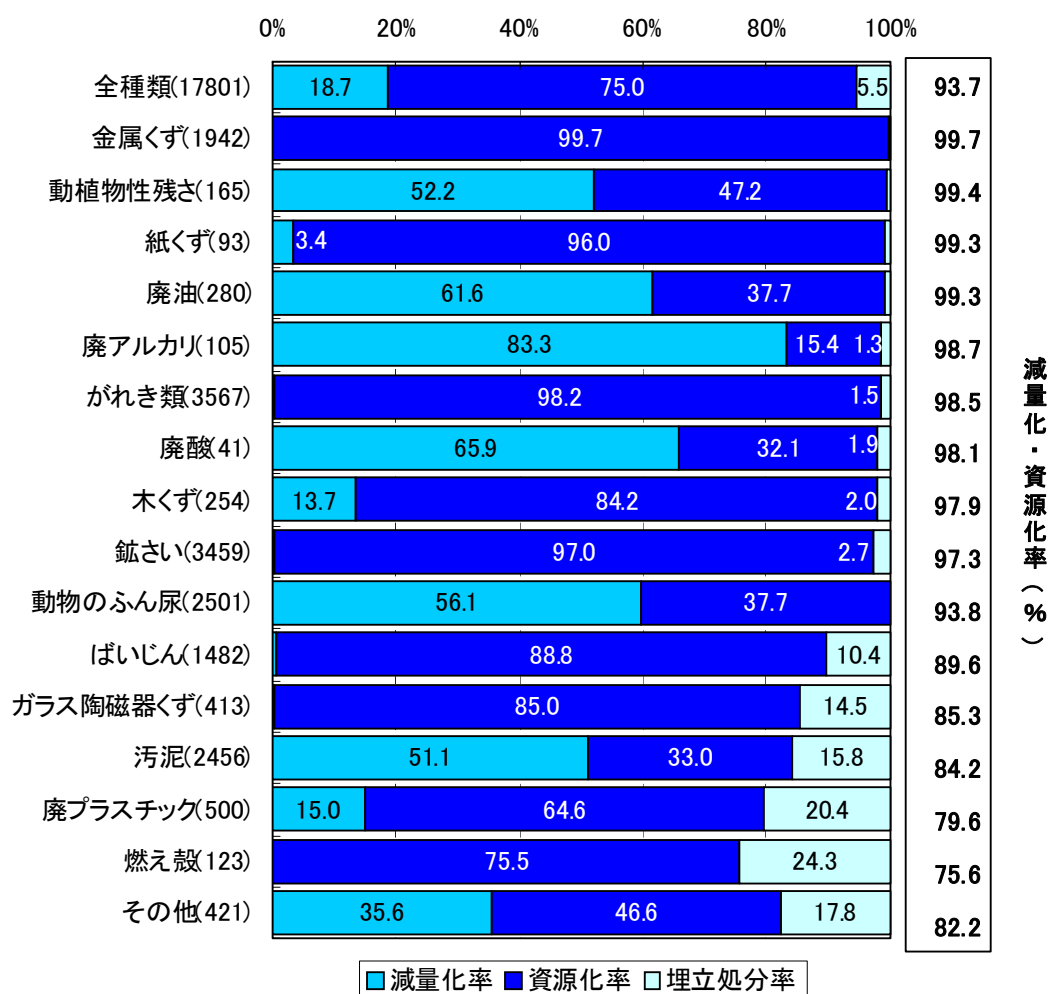
単位: 千トン

業種	年度	発生量	減量化量	資源化量		最終処分量		その他量
				有用物量	再生利用量	最終処分量	その他量	
製造業	H21	8,455	1,147 (13.6%)	6,922 (81.9%)	4,737 (56.0%)	2,186 (25.9%)	385 (4.6%)	1 (0.0%)
	H16	10,518	1,688 (16.0%)	8,264 (78.6%)	5,633 (53.6%)	2,631 (25.0%)	561 (5.3%)	5 (0.0%)
建設業	H21	4,838	198 (4.1%)	4,302 (88.9%)	53 (1.1%)	4,249 (87.8%)	337 (7.0%)	1 (0.0%)
	H16	5,312	257 (4.8%)	4,600 (86.6%)	71 (1.3%)	4,528 (85.2%)	455 (8.6%)	0 (0.0%)
農業・林業	H21	2,504	1,402 (56.0%)	946 (37.8%)	0 (0.0%)	946 (37.8%)	1 (0.0%)	155 (6.2%)
	H16	2,414	1,907 (79.0%)	508 (21.0%)	0 (0.0%)	508 (21.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
電気・ガス・熱供給・水道業	H21	1,727	515 (29.8%)	1,014 (58.7%)	126 (7.3%)	888 (51.4%)	198 (11.5%)	0 (0.0%)
	H16	1,452	410 (28.2%)	859 (59.2%)	141 (9.7%)	718 (49.4%)	183 (12.6%)	2 (0.1%)
その他	H21	278	69 (24.8%)	158 (56.8%)	18 (6.5%)	140 (50.4%)	51 (18.3%)	0 (0.0%)
	H16	898	181 (20.2%)	501 (55.8%)	27 (3.0%)	475 (52.9%)	213 (23.7%)	3 (0.3%)
合計	H21	17,801	3,331 (18.7%)	13,342 (75.0%)	4,934 (27.7%)	8,408 (47.2%)	972 (5.5%)	157 (0.9%)
	H16	20,594	4,442 (21.6%)	14,732 (71.5%)	5,872 (28.5%)	8,860 (43.0%)	1,413 (6.9%)	9 (0.0%)

注1: ()は発生量に対する割合を示す。
 注2: 数値は四捨五入のため合計が一致しないことがある。

イ 種類別の減量化、資源化の状況

平成21年度の発生量に対する減量化の状況（減量化率）を産業廃棄物の種類別にみると、高いものから廃アルカリの83.3%、廃酸の65.9%、廃油の61.6%、動物のふん尿の56.1%、動植物性残さの52.2%の順となっている。また、平成21年度の資源化の状況（資源化率）を産業廃棄物の種類別にみると、高いものから金属くずの99.7%、がれき類の98.2%、鉱さいの97.0%、紙くずの96.0%、ばいじんの88.8%となっている（図7）。



注1: ()内の数値は発生量(千トン)である。
 2: 割合の小さいものは数値の表示を一部省略した。
 3: 数値は四捨五入のため合計が一致しないことがある。
 4: 一部「その他量」(保管量等)があるため、合計が100%とならない。

図7 産業廃棄物の種類別の処理・処分状況

また、平成 21 年度の資源化量を種類別にみると、多いものからがれき類の 3,501 千トン、鉱さいの 3,357 千トン、金属くずの 1,935 千トン、ばいじんの 1,316 千トンの順となっている（図 8）。

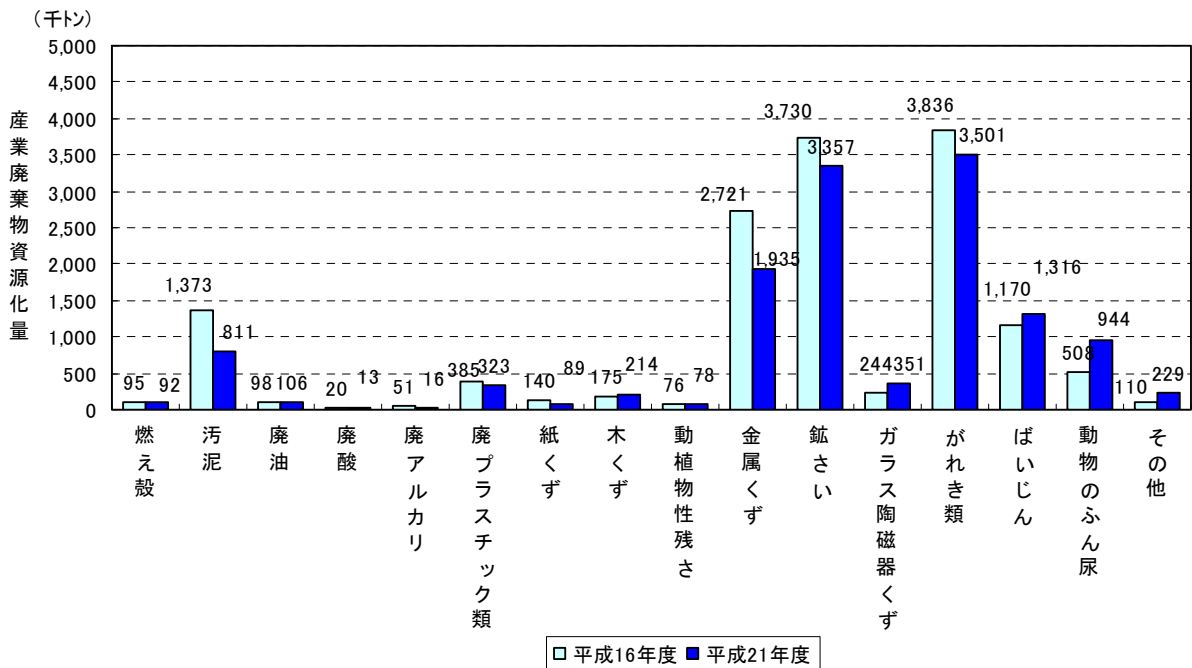
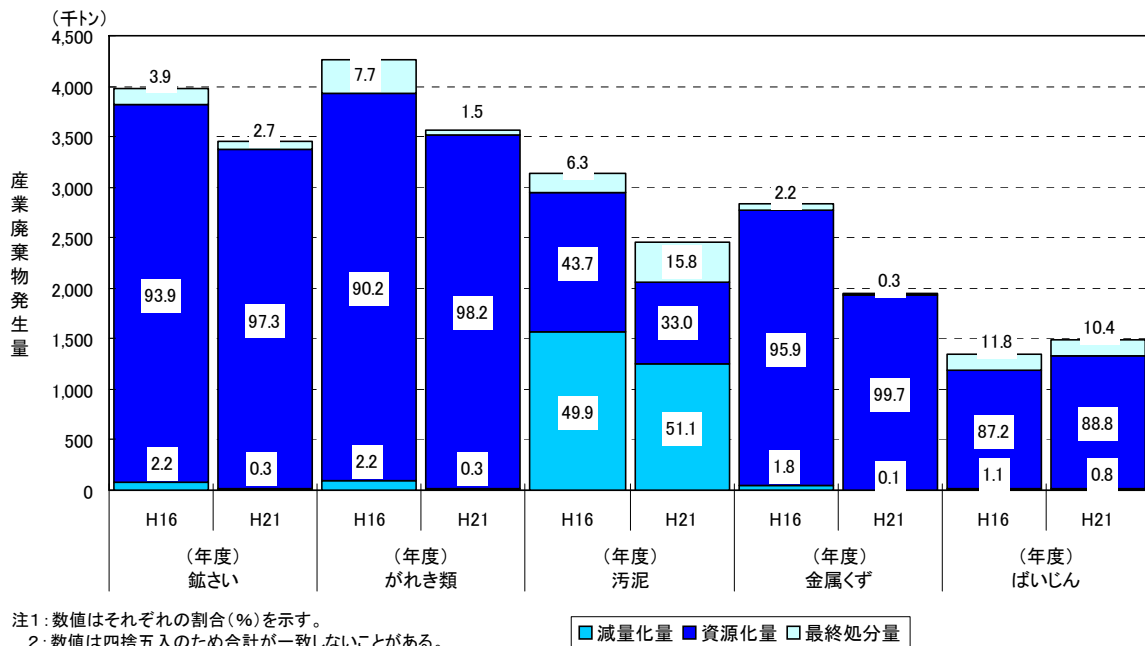


図 8 産業廃棄物の種類別の資源化量

発生量の多い産業廃棄物について、減量化・資源化の状況を平成 16 年度と比較すると、汚泥を除き減量化・資源化の割合が上昇している（図 9）。



注1: 数値はそれぞれの割合(%)を示す。

注2: 数値は四捨五入のため合計が一致しないことがある。

図 9 産業廃棄物の処理状況の経年変化

ウ 中間処理の実施主体

平成 21 年度の産業廃棄物の中間処理量 11,897 千トンを実施主体別にみると、自社処理が 37.9%、委託処理が 62.1%となっている（図 10）。

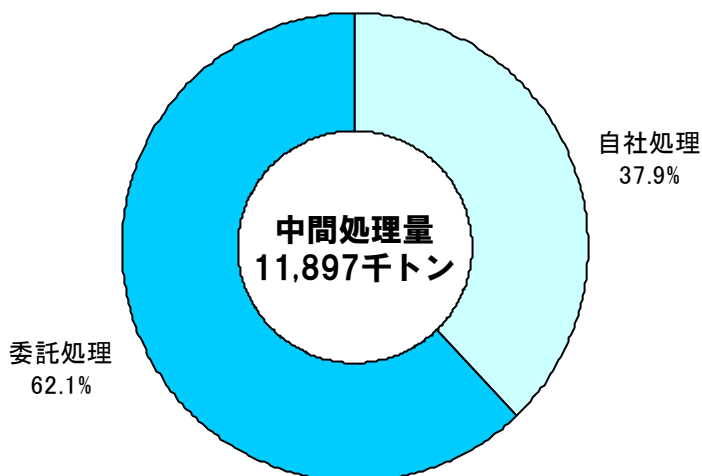
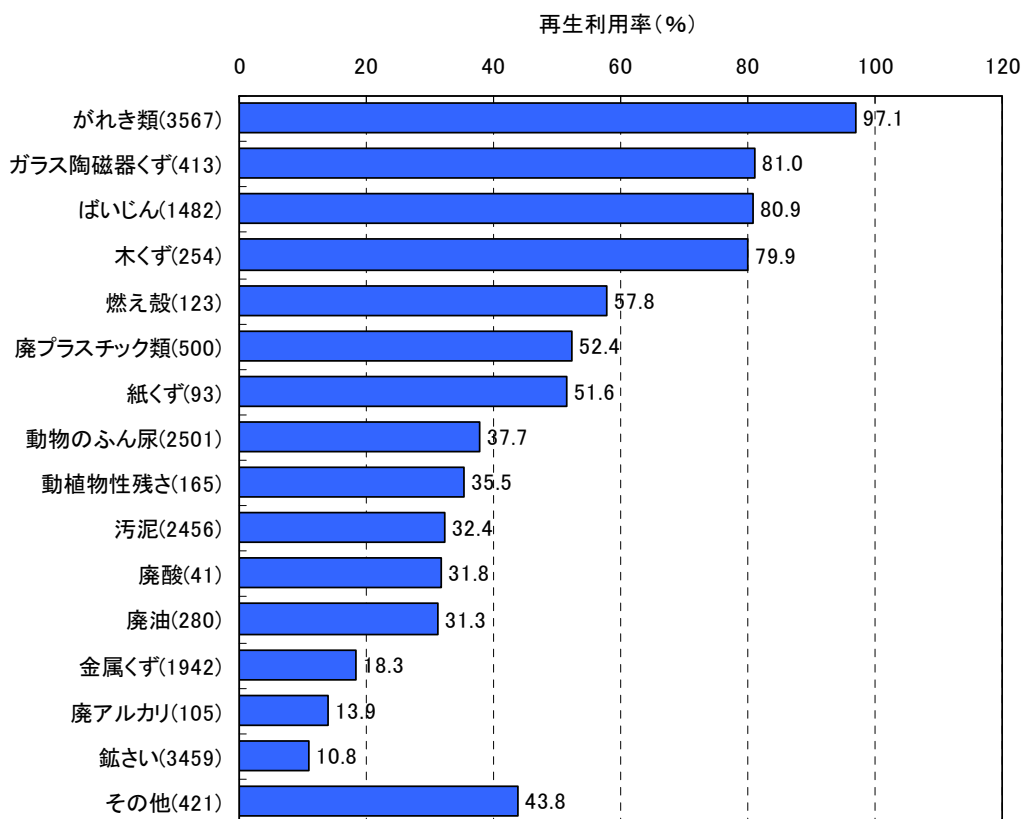


図 10 中間処理の自社処理、委託処理状況

また、中間処理による再生利用の状況を産業廃棄物の種類別にみると、高いものからがれき類の 97.1%、ガラス陶磁器くずの 81.0%、ばいじんの 80.9%、木くずの 79.9%、の順となっている（図 11）。



注：()内の数値は発生量(千トン)である。

図 11 産業廃棄物の種類別の再生利用率

(3) 産業廃棄物の最終処分の状況

平成21年度の最終処分量は972千トンであり、平成16年度の1,413千トンに比べ31.2%減少している。最終処分量は平成元年度から減少傾向が見られる(図1)。平成21年度の最終処分量を産業廃棄物の種類別にみると、多いものから汚泥の389千トン、ばいじんの154千トン、廃プラスチック類の102千トン、鉱さいの92千トン、ガラス陶磁器くずの60千トンの順となっている。それら5種類の産業廃棄物で全体の約8割を占めている(図12、図13)。

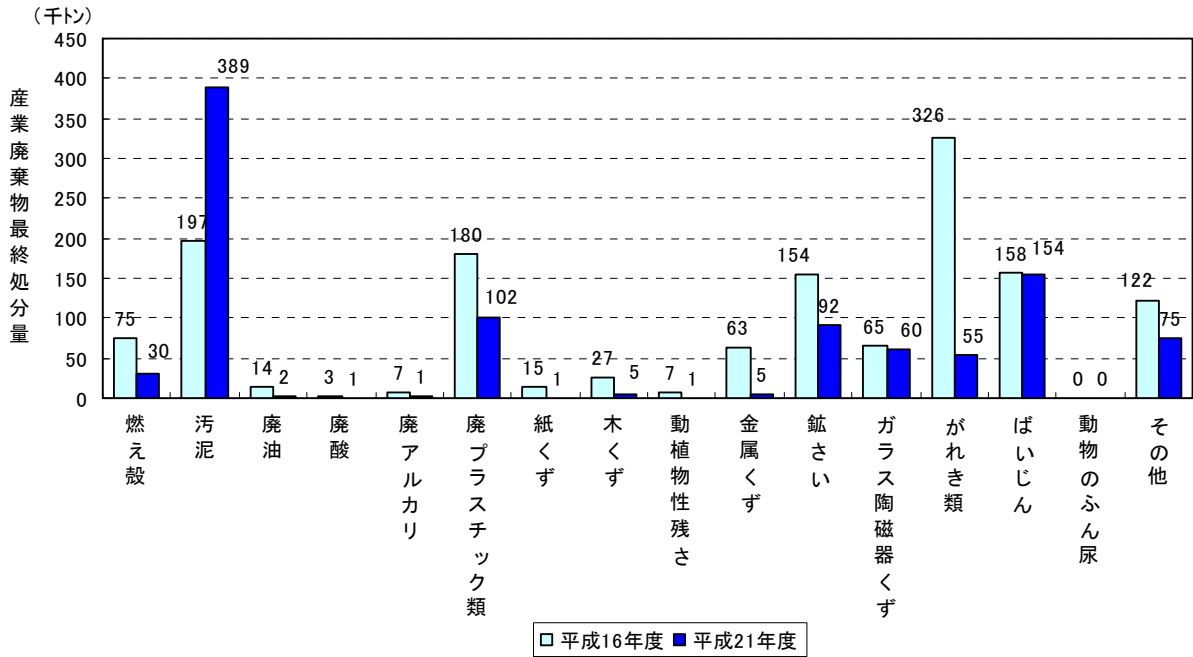


図12 種類別の最終処分量

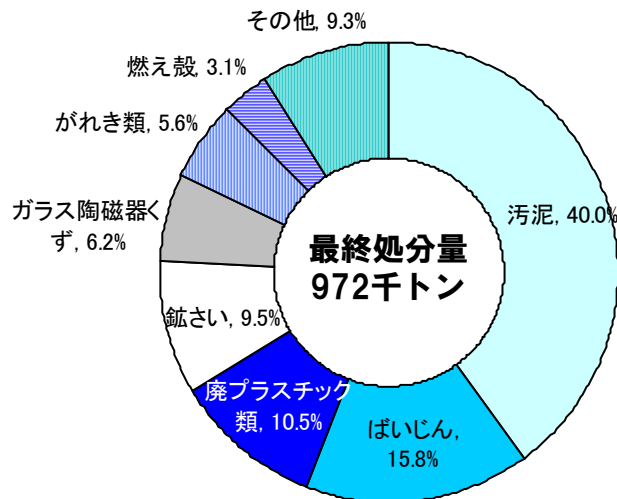


図13 産業廃棄物の種類別の最終処分状況

平成 21 年度の最終処分量 972 千トンを実施主体別にみると、自社処分が 19.7%、委託処分が 80.3%となっている（図 14）。

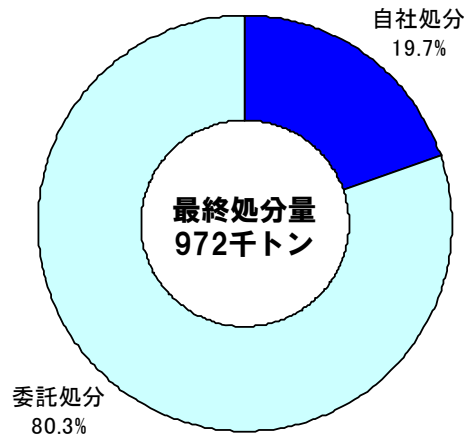


図 14 最終処分の自社処分、委託処分状況

（4）県外移出入の状況

平成 21 年度に県外へ持ち出されて処理された産業廃棄物（県外移出）は 2,914 千トンで、平成 16 年度の 1,458 千トンに比べ、約 2 倍に増加している。県外移出状況を県別にみると、近隣の三重県へ 31.1%、岐阜県へ 13.8%、静岡県へ 2.8%となっている。県外移出量を中間処理と最終処分の別にみると、中間処理目的 2,627 千トン、最終処分目的 287 千トンとなっている。

また、平成 21 年度に県内に持ち込まれて処理された産業廃棄物（県内移入）は 1,063 千トンで、平成 16 年度の 1,026 千トンと比べ、3.6%増加している。県内移入状況を県別にみると、近隣の岐阜県から 27.9%、三重県から 24.2%、静岡県から 20.5%となっている。県内移入量を中間処理と最終処分の別にみると、中間処理目的 1,056 千トン、最終処分目的 7 千トンとなっている（図 15）。

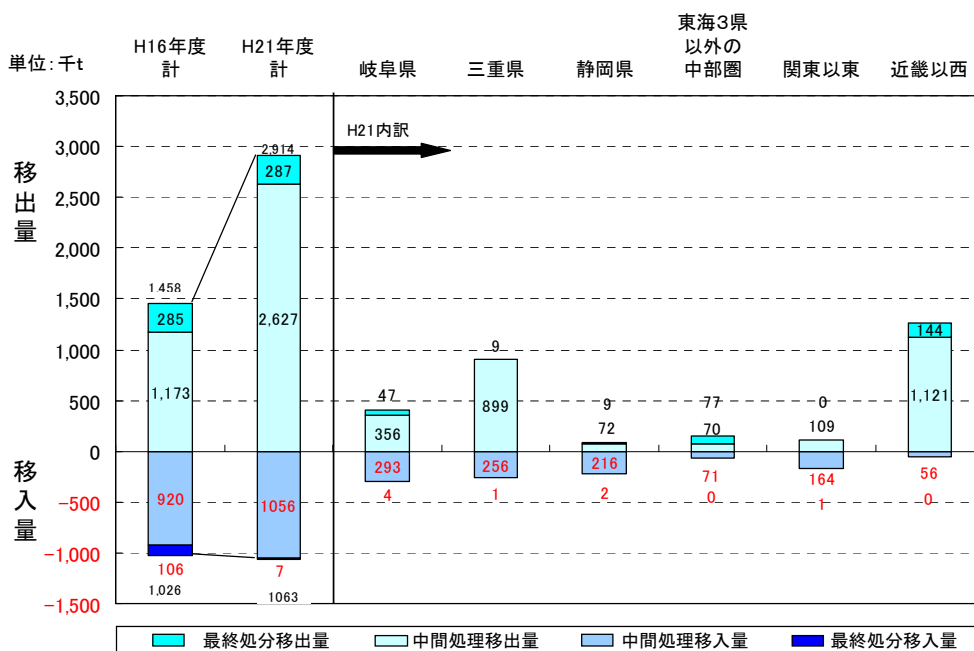


図 15 産業廃棄物の県内外への移出入状況（中間処理及び最終処分目的）

(5) 産業廃棄物処理施設の設置状況

ア 最終処分場の状況

平成 21 年度末現在県内に設置されている産業廃棄物最終処分場は 101 施設であり、そのうちの 60 施設が管理型最終処分場、37 施設が安定型最終処分場、4 施設が遮断型最終処分場である（表 2）。

表 2 最終処分場の設置状況（平成 22 年 3 月末現在）

残存容量の単位：千 m³

愛知県全域	自社処分場		自社処分場以外		合 計	
	施設数	残存容量	施設数	残存容量	施設数	残存容量
遮断型	1	0.1	3	6.5	4	6.5
安定型	5	2.1	32	490.3	37	492.4
管理型	16	1,466.1	44	5,235.5	60	6,701.6
合計	22	1,468.3	79	5,732.3	101	7,200.5

注 1：数値は四捨五入のため合計が一致しないことがある。

また、産業廃棄物処理実績報告の集計結果によると、平成 21 年度末の最終処分場の残存容量は 7,200.5 千 m³であり、その内訳は、管理型が 6,701.6 千 m³、安定型が 492.4 千 m³、遮断型が 6.5 千 m³である（表 2）。

残存容量 7,200.5 千 m³について、このままの埋立状況が続くと、残余年数は 10.4 年と試算される（7,200.5 ÷ 692（平成 21 年度の県内での最終処分量） = 10.4）。

なお、産業廃棄物の県内での最終処分量及び残存容量等の推移は図 16 のとおりである。

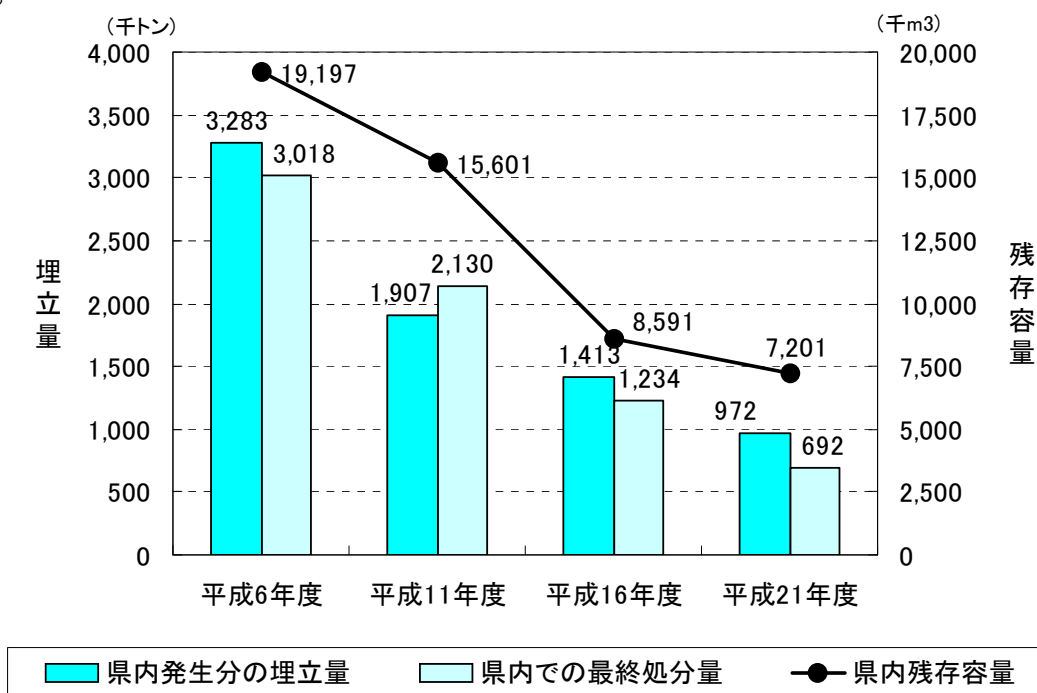
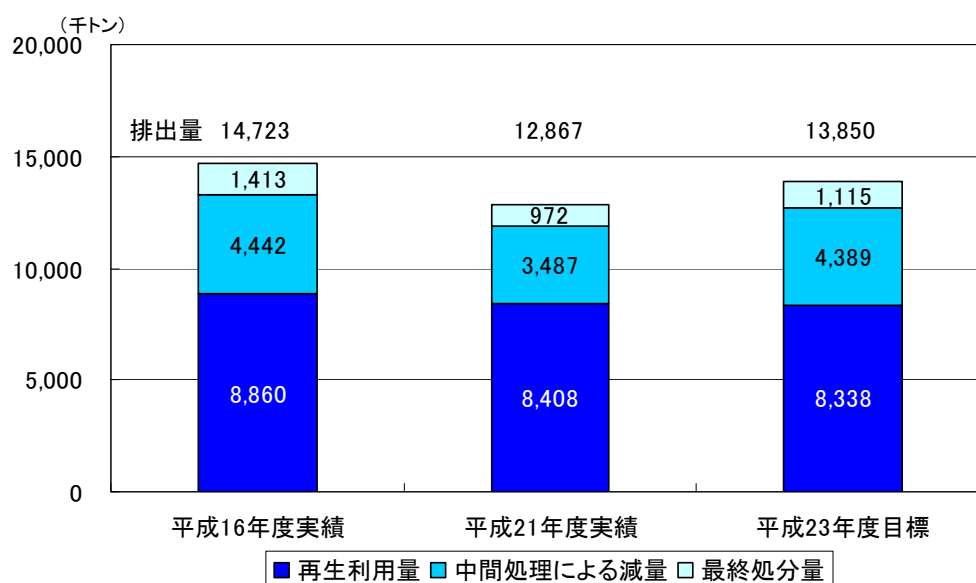


図 16 県内最終処分量及び残存容量等の推移

2 産業廃棄物処理の目標達成状況

「愛知県廃棄物処理計画（平成 19 年度～23 年度）」における平成 23 年度の減量化目標は、排出量に対する再生利用量の割合について約 60% とすること、平成 21 年度の最終処分量について、平成 16 年度最終処分量に対して約 21% 削減することを目標としている。

平成 21 年度の再生利用量の割合については、65.3% と目標値である 60% に達している。また、最終処分量については、平成 16 年度から 31.2% の削減が見られ、目標値の 21% 削減に達しているが、その大きな理由として生産活動が縮小したことによる削減が考えられる（図 17、表 3）。



注：その他量は除く

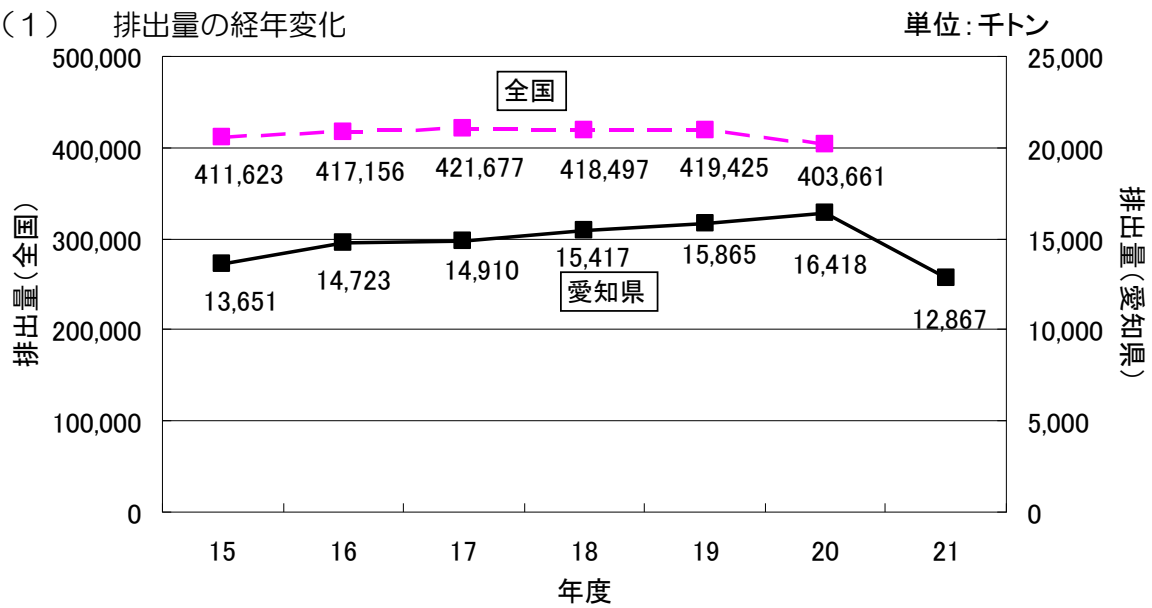
図 17 産業廃棄物の減量化の目標と現況の比較

表 3 産業廃棄物の減量化の進捗状況

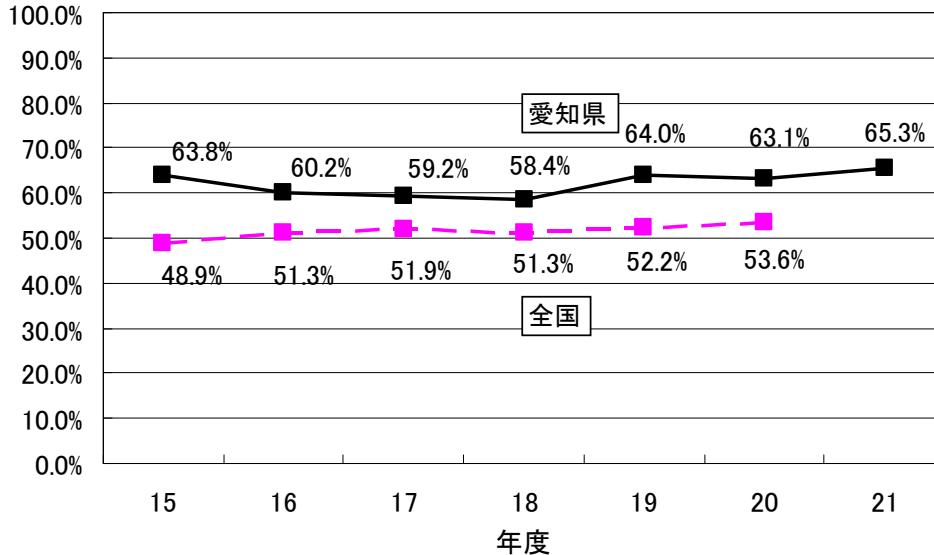
項目	目標値	進捗状況	
		計画策定時 (16年度)	現状 (21年度)
排出量に対する再生利用量の割合	約 60%	60.2%	65.3%
最終処分量	1,115 千トン (約 21%削減)	1,413 千トン	972 千トン (31.2%減)

参考 全国との比較

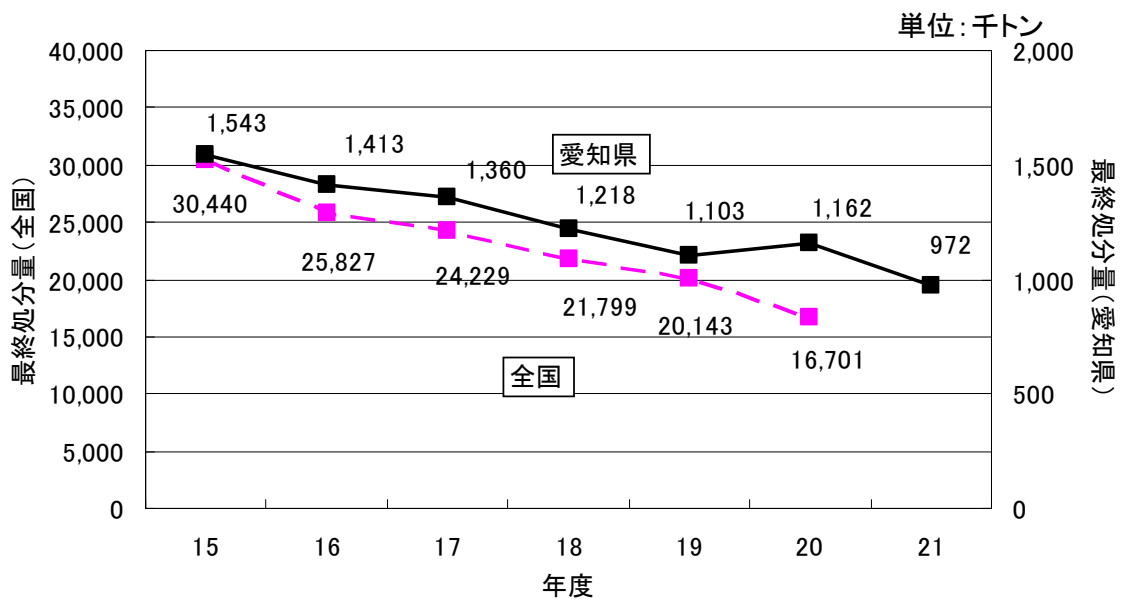
(1) 排出量の経年変化



(2) 再生利用率の経年変化



(3) 最終処分量の経年変化



(4) 業種別排出量 (平成 20 年度)

